

平成28年5月16日

みなかみ町議会議長 河合 生博 様

高原千葉村調査検討特別委員会  
委員長 林 喜美雄

### 高原千葉村調査検討特別委員会報告

高原千葉村については、昭和48年7月、林間キャンプ場の開設に始まり、青少年自然の家、市民ロッジ等建設、40年以上にわたり、千葉市民や地域住民に親しまれてきた場所であり、また、観光振興と地元雇用の場、地域経済の活性化に貢献している施設であります。

平成25年8月30日千葉市長からみなかみ町長に対して、施設の譲渡について協議したい旨の文書が提出されたのを受けて、同年11月12日の臨時議会において本委員会を設置し、現地調査、意見交換等、調査検討を重ねてまいりました。

平成25年11月18日には、町長及び議会議長に対し、赤谷区長はじめ地元三区長の連名をもって、千葉村の運営は従来通り千葉市において継続する事を望む「千葉村存続に関する陳情書」が提出され、同年12月定例議会の採択を経て、平成26年1月9日千葉市長に対し、町長及び議会議長の連名をもって、「高原千葉村の運営存続についての要望書」を提出しました。

地元の意向や経緯から、この施設がこれまで通り、千葉市によって運営されることが一番望まれる所ありますが、千葉市側の事情等を踏まえる時、一方的に千葉市の継続運営を期待するだけでは、容易にこの問題を解決することはできないと推測し、存続のための選択肢の1つとして、千葉市からの譲渡を受けて存続運営することも視野に入れて、その場合の条件等について、千葉市との間で協議に着手することが必要と判断し、平成26年3月14日、3月定例議会において、中間報告をした所であります。

その後、中間報告を受けて、「千葉市高原千葉村の譲渡に係る諸条件等の要望について」の要望書を、平成26年7月29日にみなかみ町長、議会議長、正副特別委員長、及び担当課長にて千葉市長を訪問し、提出しております。内容につきましては、青少年自然の家及び林間キャンプ場の管理棟については修繕のお願い、市民ロッジは解体撤去、中学生、千葉市民の利用促進に関する支援のお願い等6項目であります。

また、町当局においては、これら施設の修繕等に関する調査業務を外部発注にて完了しておる所であり、これらを基に千葉市側との協議継続中ではありますが、まだ千葉市側からの明確な答えが無いのが現状であります。しかしながら、報道による所によれば前向き検討されている様であります。

今後の町の創生に大きく関わる問題でありますので、引き続き地元の意向等も踏まえつつ、議会としても何らかの形で関与をしていく必要があると考えます。

以上最終報告といたします。

平成28年5月16日

みなかみ町議会議長 河合 生博 様

交流調査特別委員会  
委員長 林 一彦

## 交流調査特別委員会委員長報告（最終報告）

これより交流調査特別委員会報告をいたします。

報告は、東京都三宅村交流と東京都中野区東京演劇集団風の事業であります。

三宅村との交流は2000年の三宅島噴火による長期間の全島民避難時に猿ヶ京温泉有志が離ればなれの学校生活を余儀なくされている児童生徒を招待し、地元のこどもたちとスキーや太鼓・プレゼント交換などの交流会を実施しました。その時の三宅村教育長が現在の櫻田三宅村長です。その後平成17年より毎年三宅中学2年生がこの地をチャレンジウィーク職場体験の地として訪れるようになり、この地域間交流が現在も継続中です。

そこで昨年の2月23日から25日交流調査特別委員会2名が三宅村を訪問。そして7月29日30日三宅村議会より平野議長・浅沼議会運営委員長・曾我部事務局長がみなかみ町を訪問。8月18～19日に交流調査特別委員会全メンバーの三宅村行政視察が実施されました。

その時に、「こどもの自然体験の場に良い」、「マリンスポーツ等の環境が素晴らしい」、「火山・溶岩流を見て地球の営み・自然の猛威やその火山と向き合っている島民とふれあい感じ得るものは大きいのではないか」などの意見がでました。

この視察を踏まえ、委員会にて三宅村と、これまでの友好関係を持続可能でさらに良好なものにするために（仮称）交流協定を結ぶ事を全会一致で可決いたしました。そして本年1月20日、三宅村との友好協議を東京都港区竹芝の島嶼会館にて行いました。三宅村は議長・議会事務局長・担当課長の3名で本町側は議長・議会事務局長・まちづくり交流課長・交流調査特別委員会より委員長・副委員長の5名が参加いたしました。協議の結果、友好交流に関する覚書（仮称）を締結することに同意しました。

そして4月28日16時みなかみ町役場本庁舎3階会議室において、三宅村谷議会議長・みなかみ町河合議会議長・高橋議会副議長・交流調査特別委員会委員・関係職員立ち合いのもと、三宅村櫻田昭正村長とみなかみ町岸良昌町長が「みなかみ町と三宅村との友好交流に関する覚書」に調印し、締結が完了致しました。

つぎに中野区との交流事業についてです。

中野区の東京演劇集団風との交流です。月夜野下津地区に20年も前から演劇工房を構えている縁でより一層の本町との交流が図れないものかと、昨年3月14日に劇団風の公演視察を行いました。

その後、委員会を重ね、ぜひみなかみ町の児童生徒に本物の演劇芸術鑑賞という教育をさせてあげたいと、全会一致をもって町内での劇団風公演実施を可決いたしました。東京演劇集団風と教育委員会と調整を重ね、本年5月22日・日曜日みなかみ町カルチャーセンターつきよのホールにおいて午前10時からと午後2時からの2回の「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち～」公演を決定しました。みなかみ町内在住の方を対象に予約を開始しています。

上演後の町民の皆様の反応・感想がいまから楽しみです。

以上、「みなかみ町と三宅村との友好交流に関する覚書」の調印と東京演劇集団風の「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち～」公演決定を申し上げ、交流調査特別委員会の報告といたします。

## 交流調査特別委員会活動内容

回数	期日	曜日	内容	備考
第1回	平成26年 5月27日	火	現況の確認・今後の活動	
第2回	平成26年 6月4日	水	みなかみの資源(講義前会議)	高崎経済大学 佐々木茂 教授
第3回	平成26年 6月18日	水	果樹交流について(台湾)	
第4回	平成26年 9月12日	金	中野区交流視察について	
第5回	平成26年 9月31日~10月1日		中野区交流視察	中野区でのみなかみ町イベント に参加
第6回	平成26年 12月15日	金	中野区交流促進に関する調査・町内企業交流促進調査	
第7回	平成27年 1月19日	月	今後の交流のあり方・劇団『風』との交流について	
第8回	平成27年 2月16日	月	三宅島交流事前調査について	
第9回	平成27年 2月24日~26日		三宅村交流調査視察	委員長・副委員長
第10回	平成27年 3月18日	水	中間報告について	
第11回	平成27年 6月15日	月	三宅村交流視察について	
第12回	平成27年 8月18日~19日		三宅村交流調査視察	
第13回	平成27年 9月15日	火	三宅村との今後の展開について	
第14回	平成27年 12月7日	月	劇団風との交流について	
第15回	平成28年 1月15日	金	三宅村との交流について	
第16回	平成28年 1月20日	水	三宅村との友好協議(島嶼会館)	委員長・副委員長・議長・事務局長 ・まち交課長
第17回	平成28年 4月28日	木	みなかみ町と三宅村との友好交流に関する覚書調印式	
第18回	平成28年 5月10日	火	最終報告について	

平成 28 年 5 月 16 日

みなかみ町議会議長 河合 生博 様

地域活性化対策特別委員会  
委員長 前田 善成

## 地域活性化対策特別委員会委員長報告（最終報告）

議会は、50 年先の未来の状況を案じ行動するため、議員自ら地域資源を再認識し、外部の評価を学び特徴を明確化し、基幹産業の観光産業、農林業を発展させ、企業や就業先へと広げるために調査研究を行いました。

そして、みなかみ町中小企業・小規模企業振興基本条例制定し、農場から医療機関まですべての町内企業の生産向上につながる施策ができるようにし、地元の企業のすばらしさを子どもたちに教育をし、様々な条例の制定を住民の方と共に議会が責任を持ち施策として提言できるように成りました。

これにより、地元の学校教育機関を活かし、町内企業と行政等が連携により新規事業、企業等の創設を誘発することを最終目的ととらえ、町内就業人口、所得の向上に結び付け、全ての住民の方に希望を与え、「子どもたちがみなかみで生まれ、喜んで一生を過ごせる町」の実現を目的に活動してきました。

「みなかみ観光リゾート山岳都市構想」は、ユネスコ・エコパークとの関連性を重視しつつ、行政当とは別の視点で検討をした。

- 1) センター施設による温泉、観光地の付加価値の向上の施策については、町の産業の育成、情報基地などを兼ね備えた「テーマパーク」的な施設の検討をした。
- 2) 地域の資源・特徴の PR、共有化と各ツーリズムとの活用については、住民しか知らない埋もれた資源を示した。
- 3) 都市での就職を含めた総合的な情報提供、営業活動については気軽に議論できるツールとして議会初のソーシャルページの作成を行った。
- 4) 駅等からの二次交通の整備で交通網整備や各地域施設との連携については、観光地を繋ぐ観光に特化した交通弱者や住民も利用可能な二次交通手段を創設の検討を行った。
- 5) 地域イベントの活用や新たなイベントの創生方法については、既存のイベントの内容の充実や歴史ある祭りを積極的に PR し、都市計画道路でイベントを行う検討を行った。
- 6) 若い人の雇用先として農業施設や六次産業、既存販売施設検討については、高級なブランド力や若者世代の就業に夢の持てる「高原リゾート」にふさわしい「みなかみ産のブドウ栽培とワイン」を検討した。

その討論の中で特別委員会として決めたテーマと具体的な 6 つ政策は、政策研究や先進地視察などを繰り返してきました。その結果、今後もみなかみ町の将来に必要と考えられる施策の提案を議会自ら行うこと、町当局の政策に反映させていただくことを望みます。

そして、今後も地域活性化特別委員会の活動や施策を、議会はもとより行政の施策として活用させていただける様な活動を行い、地域振興策の一端を担うような議会活躍の場を継続していただける様に切望し地域活性化対策特別委員会の最終報告といたします。